



増築棟 11 月に完成

松本盲学校 新たな交流に期待

松本市旭 2 丁目にある県松本盲学校 (矢野口仁校長) の増築棟工事が、11 月の完成に向けて順調に進んでいます。実習を兼ねて生徒が市民にマッサージを施す治療室などが、新校舎に移ります。現在の校舎に接して建設さ



工事が進む増築棟 (右) と既存校舎

れる増築棟は、鉄骨造り 3 階建て延べ約 250 平方メートルの規模で、3 月に着工しました。学校側の説明によりますと、増築は松本市今井の県松本養護学校の過密解消を図る施策の一環です。校舎が手狭になっているほか、駐車場の確保にも頭を痛めています。完成後は松本養護の児童・生徒の学びの場を盲学校と県松本ろう学校、寿台養護学校の 3 校に順次設置し、それぞれ

れ適正規模で学習できる環境を整えるといえます。

増築棟の建設に伴い、盲学校では治療室の移動など教室の配置を見直します。長年の希望だった車いす対応のエレベーターも新設されます。

盲学校には現在、幼稚部 (3 歳) から高等部 (63 歳) までの生徒 32 人がいます。同じ屋根の下で学ぶ 18 人の養護学校生は「しなの木教室」「ひだまり教室」として新たな出発をします。花壇の整備や校庭の草むしり、公民館での奉仕治療などの交流を続ける学校と地域は、今後のふれあいの機会に期待を寄せています。



「サマーナイトフェスタ」開催

安原地区の夏まつり「第 17 回サマーナイトフェスタ IN 安原」が、7 月 22 日夜開催されました。約 1900 世帯、4900 人が住む地域の活性化を目的に始まった夏の恒例行事で、今年は約 350 人の参加がありました。実行委員長の保科守宏さん

は開会式で「知らない人と語り合いながら、絆を深めてもらいたい」と話し、あさひ学園の迫力ある太鼓演奏でスタートしました。子どもゲーム大会では、スティックを使ってボールを得点穴に落とす「スカットボール」が初めて行われました。ねらい通りの景品がもらえるまで何度も並んで楽しんでいました。

会場にはおにぎりセットやフランクフルト、生ビールなどのブースがあり、相席となった住民同士が信大生の同好会「信大レトロ」による懐かしい歌謡曲を口ずさんだり、手拍子をしたりしていました。ビンゴ大会が始まると一段と盛り上がり、最初にビンゴを完成させた人に皆で拍手を送りました。発表される数字に喜び合ったり残念がったり、子どもから大人まで会場全体が一体となる和やかな祭りとなりました。

いちよう並木

「ユキノシタの薬効」



ユキノシタ

常緑の多年草で、山地の日陰や庭先で普通に見られます。葉は肉厚で表面に粗い毛が生え、表面は緑色、裏面は赤いのです。葉柄の根元から紅紫の糸のように細い走り枝を出し繁殖します。白い奇妙な花をつけます。

小児の「ひきつけ」に、新鮮な生の葉を水洗いし、食塩を少々加えてもみ、もみ汁を口に含ませるとよいです。また、中耳炎に、新鮮な葉を水洗いし手でもみ、出た汁を直接、耳の中に 2、3 滴たらし、痛みや膿を抑える効果があります。はれものには、水洗いをした葉を火であぶり、直接患部に貼ると、自然と膿が出ます。乾燥した葉を煎じて飲むと軽いむくみにも良く効きます。

天白神社例大祭賑わう

「お祭りはぎの市とともに」



多くの子ども達で賑わう輪投げゲーム会場

天白神社の例大祭が今年も9月8、9の両日行われまし

た。戦前から大変賑やかなお祭りでしたが、時代の流れとともににだんだん規模が縮小され、一時は真つ暗で寂しいものになってしまいました。「これではいけない」と立ち上がったのが地元の萩町商興会です。かつて商店街を沸かせた「はぎの市」を「お祭りはぎの市」として復活させ、今年で10回目を迎えました。8日は晴天に恵まれ、朝の

しめ縄張りに始まり、桃太郎旗や提灯の飾りつけなど、氏子や氏子総代、商興会の皆さんによって準備が進められました。お祭りはぎの市は商興会の会員と手伝いの信大生総勢35人が催しを盛り上げました。

あさひ学園の太鼓演奏をはじめ、射的や輪投げなどのゲーム、生ビールとおつまみやたこ焼きの販売など、子どもから大人まで行列をつくって楽しんでいました。

夜は総代会主催の子どものくじ引きと神楽殿でのライブが行われ、神社一帯は訪れた人々の笑顔に包まれていました。

安原の歴史文化学ぶ

旭町小中の教職員

旭町小学校と旭町中学校の教職員を対象にした合同研修が、7月27日に安原地区公民館で行われました。地元にある歴史的建造物などを見学しながらのまち歩きをしました。

という題で開かれました。地元で活動する歴史研究会の協力で、地区公民館で1時間ほど地域の歴史について学びました。

まち歩きでは、講師の矢野喜世登さんの解説を受けながら、両下町の善光寺街道、袋町の「鍵の手」や鳩山春子生誕地、県宝の橋倉家などを見学しました。

研修は「安原地区まち歩き」

橋倉家では、下級武士クラ



矢野さんの説明を聞きながら見学する教職員

スの松本藩武家住宅の中に入り、昔ながらの造りの家屋の構造と間取りに見入っていました。

最後は信州大学まで行き、旧松本五十連隊糧秣庫(りょうまっこ)の説明を受けました。まどめの会では「安原」の地名由来なども紹介され、参加者たちからは「身近にある歴史の存在が理解できました」などの声があがりました。旭町小にこの春配属された新任教諭は「こんなにたくさん歴史の建造物があるとは知りませんでした。安原地区のことが少し分かりました」と話していました。

安原地区公民館

信大キャンパス探検隊

①理学部自然科学館

公民館報の編集者は地区メッセンジャーとして地域の情報や地区自慢を発信していきます。今回から信州大学をシリーズで紹介します。

◇ 1回目は理学部の「自然科学館」です。信大野球場裏の女鳥羽川沿いにあり、2012年8月に開設されました。



展示されているライチョウの剥製

探検隊は8月9日の昼ごろ東城幸治館長から説明を受けました。館内の虫除けのおかげから研究室であることを直感。中学校の理科室を思い出す入館の第一印象でした。科学館の正面に展示されたライチョウの剥製は、明治から昭和初期にかけて、北アルプス一帯で採取されたものです。季節の移り変わりに伴う換羽状況が分かります。

展示箱の引き出しを開けると、さまざまな鳥の剥製が収納されており、手に触れて重さも分かります。ガラス越しにただ眺める展示物とは全く異なる科学館を味わえます。知的好奇心を満たしてくれる施設です。

入場は無料。ただし事前予約制。連絡先0263-3712435

次回は医学部関係を予定しています。